

幸せへの近道

愛知県名古屋市立牧の池中学校

一年 田近 真優子

「そろそろ自分の部屋を片付けなさい！」
私は内心げんなりする。

「別に部屋が汚くたって、生活できるもん。良いじゃん別に。」
私はその言葉をはいて部屋に戻った。

こんなやりとりを毎日のようにしていたある日、家庭科の授業で「住まいの手入れ」という単元をやった。

「カビやダニは、床に散らかっている服の下にも繁殖します。みんなの家は大丈夫？」
—ドキン—私は内心あせった。いや、まさかね。ちゃんと…ちゃんと掃除…。この時は気付いた、いや、気付いてしまった。母は私のために掃除をしようと言っている。その理由は、私のアレルギーにあった。私はダニやハウスダストのアレルギーがある。もし、私が大半を過剰している部屋に、たくさんダニが繁殖してしまったら。もしも、そのせいでアレルギーの発作がでてしまったら。困るのは私。でも私だけでなく、親も困ってしまう。いくら軽い発作だったとしても、親は私を病院まで連れて行き、薬を買うだろう。そうならないためにも、掃除をすることが重要だったのだ。このことに気付くことができ、曇りだったはずの空も、なんだかまぶしく見えた。

「ただいま！」私は手を洗い、部屋へ向かう。掃除をし、床もふき、換気をする。こんな何気ない行動も、幸せへの近道だから。私は母に掃除が終わったと報告した。私は今、家族と幸せになるためにも、掃除を続けている。週末には掃除機を使って、毎日換気をする。掃除とは不思議なもので、終わると達成感を得られる。これは家だけでない。学校でもそうだ。ろう下での大変な水ぶき掃除も、みんなで協力すれば5分ほどで終わり、ごみが落ちていないと、とてもとても嬉しい。私は掃除が好き。学校のトイレ掃除は少し大変なこともあるが、それでもみんなが快適な生活を送れると思うと不思議と力も湧いてくる。私は、私は、掃除が大好きだ！。